

ジャン=フランソワ・ミレー 《乳しぼりの女》

賀川恭子

1814年にフランス北西部のノルマンディー地方にあるグリュシー村で生まれたジャン=フランソワ・ミレー（1814-1875）は、シェルブールで絵の勉強をはじめたのち、シェルブール市の奨学金を得て1837年にパリに出て、エコール・デ・ボザールで学んだ。初期は肖像画や風俗画を描いていたものの、その後、農民の生活を画題として取りあげるようになった。1849年にパリの南東約60キロのところにあるバルビゾン村に移住。1875年に没するまで同地で農民画の制作をつづけた。

農民画家として知られるミレーは、日本でも人気の高い画家のひとりであろう。2014年はミレー生誕200年にあたり、日本国内では2つのミレー展が巡回した。ひとつは、高知県立美術館、名古屋ボストン美術館、三菱一号館美術館で開催された「ボストン美術館 ミレー展」で、ボストン美術館の所蔵品のなかから20作家による油彩画64点を紹介した（ミレーの油彩画はそのうち25点）。もうひとつは、山梨県立美術館、府中市美術館、宮城県美術館で開催された「生誕200年 ミレー展

愛しきものたちへのまなざし」で、国内外で所蔵するミレーの油彩画、版画、素描、パステル画など約80点を紹介した。宮城会場では、当館所蔵のミレー《乳しぼりの女》(fig.1)も展示された。

フランスでは回顧展は開催されなかったものの、生誕200年を記念して、フランス国立美術史研究所の学術顧問ジャンタル・ジョルジェルが、近年の研究成果をふまえた大著『ミレー』を刊行した¹⁾。ミレーのカタログ・レゾネはいまだ刊行されてお

らず、ロバート・ハーバートの監修により1975年にグラン・パレ、1976年にヘイワード・ギャラリーで開催されたミレーの回顧展の図録が基礎文献となっている。ジョルジェルの書籍はそれを補完する存在になるであろう。

同様に、当館所蔵のミレー《乳しぼりの女》に関する考察も、これまであまりなされてこなかったように思われる。そのため本稿の前半では作品の基礎情報を確認し、後半ではミレーとノルマンディーとの関係を検証する。

1. 作品の基本情報

《乳しぼりの女》について当館で把握している来歴は、以下の通りである：

1875年, J.-F. ミレー売立, lot 24; マーティン・ブリマー・コレクション (ボストン美術館); 1940年, 山中商会, 大阪; 和田久左衛門, 大阪; フジカワ画廊; 1971年, 石橋財団

1875, sale Vente J.-F. Millet, lot 24; Coll. Martin Brimmer (Museum of Fine Arts, Boston); 1940, Yamanaka & Co., Osaka; WADA Kyuzaemon, Osaka; Fujikawa Galleries; 1971, Ishibashi Foundation.

ミレーが1875年1月20日に亡くなったのち、同年5月10日および5月11日にパリのオテル・ドゥルオで売り立てが開催された。《乳しぼりの女》は、



fig.1
ジャン=フランソワ・ミレー 《乳しぼりの女》
1854-60年、油彩・カンヴァス、59.0×72.4 cm、
石橋財団ブリヂストン美術館

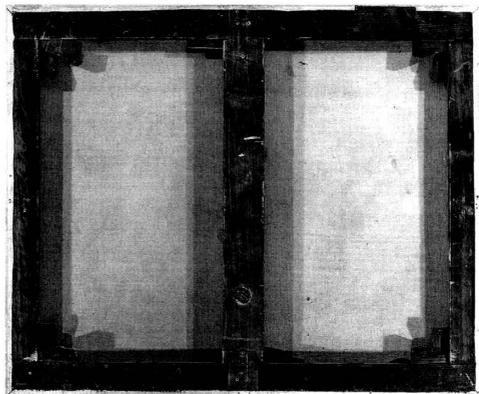


fig.2
ミレー 《乳しぼりの女》裏面写真

ミレー没後に遺族が売却した油彩画56点のうちの1点であり、作品の裏面をみると、中央の木枠には「VENTE J. F. MILLET」の朱色蠟印が押されている (fig.2)。油彩画および油彩習作の売り立ての結果は、アレクサンドル・ピエダニエルの著作『J.-F. ミレー、バルビゾンの想い出』に記載されている³⁾。本稿資料にまとめたとおり、競売作品は制作年順に掲載されているが、そのうち36番「Étude pour les Falaises de Gréville」は競売にかけられなかったため、油彩55点が売却された。《乳しほりの女》(24. Femme trayant une vache. / Pâturage de Normandie. / Haut. 59 c.; Larg. 72 c. / 1860.)の落札額は、6,800フランだった。競売の合計金額は276,135フランで、作品の平均金額は5,021フランとなる³⁾。《乳しほりの女》の競売結果は平均よりもわずかに高く、ミレーの作品のなかでは、当時それなりに高く評価されていたことが推測される。

ミレーは、美術総監フィリップ・ド・シュヌヴィエールによって1874年に提案された、パリのサント=ジュヌヴィエール聖堂の壁画制作者にも名を連ねており、晩年には画家として確固たる地位を確立していたと言えよう(残念ながらミレーは制作にかかる前に死去してしまった)。1874年に第一回グループ展を開催した印象派の画家たちの競売結果に目を向けると、1875年には合計72点が11,496フランで落札されており、作品の平均金額は約160フランだった⁴⁾。ミレーと若い画家たちとの差は明白である。

一方、1874年のサロンでの国家買上では、2,000フラン以下が買上、2,500フラン以上が注文として処理されており、絵画の価格上位としては、ピエール=アドリアン=パスカル・ルウー《殉教者聖ラウレンティウス》が8,000フラン、フェルディナン・アンペール《聖母子と洗礼者ヨハネ》が7,000フラン、アンリ=レオポール・レヴィ《サルベドン》が6,000フラン、ジャン=ジャック・エンネル《善きサマリア人》とシャルル・ピュッソン《ラヴァルダン城の旧壕、モントワール付近》が各4,000フランだった⁵⁾。国家買上と競売結果を単純に比較するわけにはいかないが、ミレーの1875年の競売結果をみれば、彼の評価は決して低くはなかったと思われる。

ところで、ピエダニエルも述べているが、1875年1月20日に亡くなったときにミレーのアトリエに残されていた作品の大半は、未完成だった⁶⁾。完成した油彩画にサインを入れる習慣がミレーにあった点からも、作品の描き込みが不十分である

点からも、《乳しほりの女》は未完成のままアトリエに残されたと考えられるべきであろう。その代わりに《乳しほりの女》の画面右下には「J. F. Millet」という赤色のアトリエ・スタンプが押されている (fig.3)。

ロバート・ハーバートは、ミレー作品の真贋に関する1973年の考察のなかで、アトリエ・スタンプを検証、分類わけしている (fig.4)。《乳しほりの女》のアトリエ・スタンプは、ハーバートの分類での「1875 E」にあたる⁷⁾。このスタンプに使われた文字の特徴に関するハーバートの説明を要約すると、以下の通りとなる:「1875 E」は1875年の売り立てで油彩画のおもて面に赤色で押されたスタンプであり、各文字の特徴としては「J」のしっぽ部分が欠け、「E」の真ん中の横棒が下の縦棒と一文字つづきとなり、「M」の一画目の縦棒が左曲がり、二画三画の縦棒がZ字をかたちづくり、そこから離れた四画目の縦棒がほとんど垂直になり、「T」の横棒が傾き、縦棒から伸びたしっぽが太くなっている。同様の特徴は、《乳しほりの女》のアトリエ・スタンプにも認められる。

1875年の売り立てでこの作品を購入したのは、ボストン生まれボストン育ちの美術収集家マー

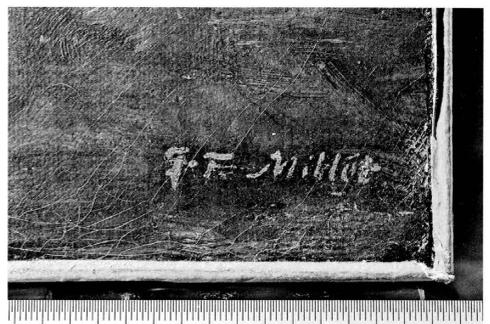


fig.3
ミレー《乳しほりの女》部分図



fig.4
ハーバートによるアトリエ・スタンプの分類
引用典拠: Robert L. Herbert, 'Les Faux Millet', *Revue de l'Art*, no. 21(1973), p. 64.

ティン・プリマー（1829-1896）だった⁸⁾。

1842年から1845年までボストン市長をつとめた父をもつプリマーは、1859年から1861年までマサチューセッツ州議会議員、1865年には合衆国上院議員をつとめた。プリマーは、ハーバード大学を1849年に卒業したのち、パリのソルボンヌ大学で学んだ。そのときに、同郷の友人で画家のウィリアム・モリス・ハントから勧められて、1853年のサロンで発表されたミレーの《刈り入れ人たちの食事（ルツとポアズ）》を購入し、1854年にはこの作品をボストン・アシニウムで公開した。その後もプリマーはミレー作品の購入をつづけ、1855年には《編物のお稽古》（1854年頃制作）を、1857年と1860年には《洗濯女》（1855年頃制作）をボストン・アシニウムで展示した⁹⁾。プリマーのおかげで、ボストンではミレーの最新作を目にすることができたのだ。当時、ボストン・アシニウムは美術館としての機能を果たしており、その後、その所蔵作品をもとにボストン美術館が創設されることになる。プリマーは、1870年から1895年までボストン美術館の初代館長をつとめた（美術館の開館は1876年）。1896年にプリマーが没したのち、彼の収集した絵画や工芸品は夫人に遺贈され、さらに1905年に夫人が亡くなると、1906年にそのコレクションの一部はボストン美術館に寄贈された¹⁰⁾。そのうちミレーの作品は、《刈り入れ人たちの食事（ルツとポアズ）》《洗濯女》《編物のお稽古》《「刈り入れ人たちの食事（ルツとポアズ）」の習作（木炭）》《そばの収穫（パステル）》《近く嵐（パステル）》の6点が含まれていた。ボストン美術館のコレクション形成にとってプリマーの存在は大きかった。

ここで《乳しぼりの女》に話題を戻そう。1875年の競売でミレー作品を購入したプリマーは、1876年に《縫物のお稽古》や《乳しぼりの女》および素描約20点をボストン美術館に寄贈した。《乳しぼりの女》は「Woman Milking a Cow」という題名で、「accession number 76.2」にて登録された。しかしボストン美術館は、他の作品購入のための資金を得るために1940年6月13日に《乳しぼりの女》を手放し、山中商会のニューヨーク支店に売却した。ボストン美術館の記録によれば、山中商会は匿名の日本人顧客の代理としてこの作品を購入したようである¹¹⁾。

ミレーは特定の画題を繰り返し描いたことで知られるが、「乳しぼりの女」は1866年にパステル画としてふたたび取り上げられた（fig.5）（Moreau-Nélaton, tome 3, fig. 228）。現在所在不明のこのパ

ステル画は、「牛」という題名で1923（大正12）年の「第5回仏蘭西現代美術展覧会」で紹介され、展覧会評で高く評価された：「ミレーの『牛』と題するパステル畫は、眞に美事な製作である。これは此度の展観に於て、最も重要な位置を占めるもので、理屈なしに頭の下る製作である。それは爽やかな新緑の丘を遠景として、近景に牛と乳を搾る農婦を配してある。崇高と、静寂と、詩がそこに在る。観てゐるに従つて、私達は涙ぐましい感情の昂まつて来るのを覚える」¹²⁾。このパステル画は、展覧会前日の招待日に実業家・原邦造によって売却された。展覧会を主催したのは、フランス人画商エルマン・デルスニスと黒田鵬心が設立した日仏芸術社。同社による1931（昭和6）年の「十週年記念・フランス美術展覧会」にもこのパステル画は出品された。ボストン美術館で所蔵されていた《乳しぼりの女》を日本人が所望したのは、日本ですでに紹介されたパステル画のヴァリエーションだったからなのかもしれない。

日本にもたらされた《乳しぼりの女》は、いつの時点からは不明だが、大阪の実業家・和田久左衛門（1890-1968）の所蔵となった¹³⁾。和田の所蔵する作品数は多くなかったものの、モネやゴッガン、セザンヌの重要な作品が含まれていた。和田の西洋美術収集は、昭和初期から始まり、1940年から41年にはほぼ完成していたとされる。そのため、《乳しぼりの女》が日本に入つてすぐに和田のコレクションに加わった可能性は高い¹⁴⁾。

《乳しぼりの女》の来歴を詳細に確認した結果は、以下の通りである。これまで当館で把握していた来歴を少し修正する必要があるだろう。

1875年, J.-F. ミレー売立, lot 24 ; 1875年, マー



fig.5
ジャン=フランソワ・ミレー 《牛》
1866年 パステル・紙 所在不明
引用典拠：Etienne Moreau-Nélaton, *Millet rencontré par lui-même*, Paris, 1921, tome 3, fig. 228.

ティン・ブリマー；1876年、ボストン美術館；1940年、山中商会、ニューヨーク；山中商会、大阪；和田久左衛門、大阪；フジカワ画廊；1971年、石橋財団

1875, sale Vente J.-F. Millet, lot 24; 1875, Martin Brimmer; 1876, Museum of Fine Arts, Boston; 1940, Yamanaka & Co., New York; Yamanaka & Co., Osaka; WADA Kyuzaemon, Osaka; Fujikawa Galleries; 1971, Ishibashi Foundation.

2. ミレーとノルマンディー

《乳しぼりの女》の画面中央で牛の乳をしぼる女性は、特徴的なかぶり物（コアフ）を身につけていることから、ノルマンディー地方の女性であることがわかる。

アルフレッド・サンシエの伝記によると、ミレーは1837年にパリに出てからも、毎年のようにノルマンディーに戻り、グリュシーで数週間を過ごしていた。「辛く苦しいときには、ミレーはノルマンディーに帰ることにしていた。家族と故郷の空気、平和と人情をしみじみと感じさせてくれる土地でミレーの心はなごむのであった」¹⁵⁾。とはいうものの、1845年から一年ほどル・アーヴルで過ごしたのを最後に、しばらく故郷に戻ることができなかった。

ミレーがふたたびノルマンディーに滞在するのは1854年のことだった。1853年4月に母が亡くなったため、1854年5月にミレーは一人で故郷グリュシーに帰り、きょうだいとともに財産整理に立ち会った。彼は同年6月に家族を連れてふたたびノルマンディーに向かうことになる。二度目のノルマンディー滞在の理由について、サンシエは、《鶏に餌をやる女》が2,000フランという高額で個人コレクターに売れたため金銭面に余裕ができたことをあげている。

1854年6月18日付のサンシエ宛の手紙で、ミレーはこのように述べている：「私は明日の月曜に故郷のノルマンディーに向かう。つまり、明日パリに着くことになる。子どもたちが乗合馬車で疲れすぎないように、そこで一泊し、火曜にまた出発したい。（中略）一ヶ月で帰るつもりだ」¹⁶⁾。ミレーは、家族とともに1854年6月19日にバルビゾンを出発し、同日夜にパリで一泊したのち、ノルマンディーに向かったのだ。サンシエによるミレー伝では、故郷グリュシーの風景を慈しむようにみつめ、この土地を描きとめるミレーの姿が書かれて

いる。また、幼い彼に絵の手ほどきをした神父ジャン・ルブリスーとの感動的な再会についても、長々と説明されている。

先に引用した手紙には「一ヶ月で帰るつもりだ」と書かれていたが、ミレーのグリュシー滞在は4ヶ月に及び、滞在中に14点の絵画と20枚ほどの素描ができあがり、2冊のクロッキー帳がいっぱいになったとサンシエは言う。「ミレーのグリュシー滞在は、彼の将来にとって実に有意義であった。彼は、あふれるほど豊かな画題を集めることができた。故郷の、初めて感激した土地の思い出を、さらに正確に蘇らせ、彼はその大きな特徴と独創性を、印象的な方法で固定していった」¹⁷⁾。

エティエンヌ・モロー＝ネラトンは、この滞在期間は3ヶ月ほどであり、グリュシーの他にも、エキュルヴィルやシェルブールにも滞在したとみなし、故郷に残っていた姉エミリーが《乳しぼりの女》や他の作品のモデルをつとめたと述べている¹⁸⁾。

アレクサンドル・マーフィーは、1854年のル・アーヴル滞在中にミレーがウジェーヌ・ブーダンと出会った可能性を示唆し、当館所蔵の《乳しぼりの女》、および、ウースター美術館所蔵の色鮮やかなパステル画《乳しぼりをするノルマンディー地方の女》(fig.6)が、メトロポリタン美術館所蔵の1854年頃の素描《木の下での羊の毛刈り》の裏面に描かれたスケッチ (fig.7) とルーヴル美術館所蔵の素描 (RF 5663 recto) を元に制作されたことを指摘する¹⁹⁾。

ミレーは、ノルマンディー滞在中に素描やスケッチを行い、それらをもとに油彩画を仕上げたのであろう。とはいえ、スケッチに描かれている



fig.6
ジャン＝フランソワ・ミレー 《乳しぼりをするノルマンディー地方の女》
パステル、黒コンテ・薄青色の紙 19.2×30.6 cm
ウースター美術館
引用典拠：Alexandra R. Murphy, et.al., *Jean-François Millet: Drawn into the Light*, exh. cat., Sterling and Francine Clark Art Institute, 1999, p. 66.

牛の向きがいずれも異なることから、これらはウースター美術館所蔵のパステル画のためのものと考えらるべきであろう。《乳しぼりの女》と直接結びつくスケッチは、残念ながら、みつかっていない。

ニール・マクウィリアムが適切に指摘しているとおり、サンシエの伝記は、農民の生活に深く根づいた「農民画家ミレー」という神話を生み出すのに大きな役割を果たした²⁰⁾。近年のロバート・ハーバートの研究によって、読書家のミレーが16世紀から19世紀までの作家たちの文章を書き写していたこと、サンシエが1865年にサロン評を書くにあたりミレーのアドバイスを受けたことも明らかとなった²¹⁾。ミレーは、故郷を離れて以降、パリの画壇を活動の場とした画家であり、バルビゾンに移住したのちもサロン（官展）への出品を重要視していた。

当時のノルマンディーの状況を確認しておこう。フランスで鉄道が開通したのは1832年。サン＝ティエンヌからリヨンまでの58キロの路線だった。パリ周辺としては、1837年にパリとサン＝ジェルマン＝アン＝レーのあいだの路線が開通した。その後、1843年にはルーアン、1847年にはル・アーヴル、1848年にはディエップ、1858年にはシェルブールがパリと線路でつながった。ノルマンディーの旅行ガイドが刊行されたのも、鉄道網によりパリから行きやすい場所になったためである。都市と繋がり観光地化される一方で、地方は、それぞれのアイデンティティを重視するようになった。19世紀フランスは、地方意識が高まった



fig.7
ジャン＝フランソワ・ミレー《木の下での羊の毛刈り》
1854年頃 コンテ、擦筆、ペン、茶色のインク、
白色のグワッシュ・透かし紙 29.5×22.5 cm
メトロポリタン美術館
The Metropolitan Museum of Art, Gift of Miss G. Louise Robinson, 1940, 40.12.3
www.metmuseum.org

時代でもあった²²⁾。ノルマンディーでは、地方学術団体がもっとも早い時期に隆盛を迎えた。地方学術共同体の活動を主に担ったのは、貴族、大土地所有者、自由業者など、教養ある地方名士たちで、彼らは歴史的建造物の保存や農業振興のために研究をおこなった。彼らの研究成果は、旅行記やガイドブックを通じて広く流布した。名士たちを中心とした郷土研究によってノルマンディー固有の要素が見出され、地域アイデンティティが生み出された。考古学者アルシス・ド・コーモンは、1824年にノルマンディー好古学協会を設立したのち、1834年に全フランス記念碑保存調査協会を、1839年には地方学士院を設立し、地方の在野の学術団体を連携組織化することを試みた。19世紀前半、地方の学術団体の連携の中心にあったのは、ノルマンディーだった。

ノルマンディー出身のミレーが出身地ノルマンディーの農婦を絵画の題材とすることは、地方意識の高まりと無関係ではないだろう。とはいえ、ミレーは農民の姿を忠実に写し取ったわけではない。モーラ・コフリンの研究により、牛乳壺を運ぶノルマンディー地方の女性を描くにあたり、ミレーが当時の旅行ガイドの挿図や絵葉書の写真を参考にしていたことが明らかとなった²³⁾。このミレーの制作態度は、ギュスターヴ・クールベがエピナール版画（民衆版画）を参照したことを想起させる。このような状況をふまえると、ミレーの描くノルマンディーの女性たちは、パリ市民になじみのある姿で表現されていたと言えよう。

ミレーによる一連の「乳しぼりの女」では、女性のかぶるコアフは出身地を示すことに役立っている。乳しぼりの女は、姉エミリーがモデルをつとめた可能性もあるものの、顔を見せることなく、匿名の存在としてあらわされている。背景にあらわされた風景も作品によって異なっており、描かれた場所の特定を拒んでいるかのようである。このような曖昧さのおかげで、見る者は、それぞれの故郷に思いをはせることができる。そして、その点こそがミレー作品の評価に繋がったのではないだろうか。

1847年初めにサンシエが初めてミレーに出会ったときのエピソードに注目したい。自分の作品を気に入ったというサンシエにミレーは心を開き、「ノルマン方言のアクセントで」²⁴⁾芸術論を話したという。サンシエは言う。「後年、私は彼のこの魅力がなんであるかを理解した。ミレーは私の子供時代の思い出を再現してくれたのである。私は彼と同様、楽しいこと、辛いこと、すべてを含

めて、田舎を愛していた。ミレーと出会って、私の幼かった頃の記憶とおぼろ気な思い出が、眼前にまざまざと甦って来たのであった。私はミレーの絵に、村を、牧場を、そして森を見た。パリに来て、麦を、収穫を、そして種まきを忘れていたのである。やっと今、私は、かつて愛したもののすべてのイメージをキャンバス上に、無言のうちに再生してくれる人間と出会ったのである」²⁵⁾。このサンシエの言葉は、ミレー作品が評価された理由を端的にあらわしているように思われる。

以上、本稿では《乳しぼりの女》の来歴を確認すると同時に、作品に描かれたノルマンディーについて考察した。その結果、これまであまり注目されてこなかった作品ではあるが、ミレー作品の理解にとって重要な作品であることがわかった。ミレー生誕200年という節目が、ミレー作品についてのより深い理解を進める契機になればと思う。

註

- 1) Chantal Geogel, *Millet*, Paris, 2014.
- 2) Alexandre Piedagnel, *J.-F. Millet; Souvenirs de Barbizon*, Paris, 1876. 1875年の売り立ての結果は、原文のまま、以下の文献に転載されている：井出洋一郎編「参考資料解題」『開館一周年記念特別展 ミレーとバルビゾン派』(図録)山梨県立美術館、1979年、124-127頁。売り立て作品の詳細情報については、以下の競売カタログを参照のこと。*Catalogue de la vente de Jean-François Millet*, Paris, 1875.
- 3) ピエダニエルは合計金額を276,235フランと記しているが、各作品に付された金額を合計すると276,135フランであったため、本論では後者の数字を採用した。個別の数字に誤りがあるのか、単純な計算間違いなのかは不明である。
- 4) Merete Bodelsen, "Early Impressionist Sales 1874-94 in the Light of Some Unpublished 'Procès-Verbaux'," *The Burlington Magazine*, Vol. 110, No. 783 (June 1968), pp. 330-349.
- 5) 喜多崎親「1874年のサロンにおける国家買上ならびに注文作品に就いて」『1874年ーパリ [第1回印象派展] とその時代』(展覧会図録)国立西洋美術館、1994年、209-220頁。
- 6) 目録には以下の通り記されている：Tableau, études peintes, aquarelles, pastels, dessins et croquis, trouvés dans l'atelier de Millet, au moment de sa mort (20 janvier 1875). La plupart de ces travaux sont inachivés.
- 7) Robert L. Herbert, 'Les Faux Millet', *Revue de l'Art*, no. 21 (1973), pp. 56-65.
- 8) マーティン・ブリマーについては、以下の文献を参照：Samuel Eliot, "Memoir of Martin Brimmer," *Proceedings of the Massachusetts Historical Society, Second Series*, Vol. 10 (1895-1896), pp.586-595; William Everett, "Martin Brimmer," *Proceedings of the American Academy of Arts and Sciences*, Vol. 31 (1895-1896), pp. 360-363; Wayne Andrews, "Martin Brimmer: The First Gentleman of Boston," *Archives of American Art Journal*, Vol. 4, No. 4 (October 1964), pp.1-4; Susan Fleming, "The Boston Patrons of Jean-François Millet," in Alexandra R. Murphy, *Jean-François Millet*, Boston Museum of Art, 1984, pp. ix-xviii；スーザン・フレミング「ジャン=フランソワ・ミレーのボストンの後援者たち」『ミレー展 ボストン美術館蔵』(図録)日本橋・高島屋、北海道立近代美術館、山口県立美術館、松坂屋本店、京都市美術館、山梨県立美術館、1984年、14-22頁。
- 9) Robert F. Perkins, Jr. and William J. Gavin III ed., *The Boston Athenaeum art exhibition index, 1827-1874*, Boston, 1980, p.189.
- 10) "The Brimmer Bequests," *Museum of Fine Arts Bulletin*, Vo 4, No. 22 (October 1906), p.33, 40. ブリマー・コレクションの全体像はいまだわかっておらず、近年でも新たな資料が発見されつつある；Margaret F. MacDonald, "A Rediscovered Whistler: 'Violet and Blue: Among the Rollers,'" *The Burlington Magazine*, Vol. 149, No. 1249 (April 2007), pp. 261-262.
- 11) ボストン美術館の記録に関しては、同館の Julia Welch 氏より情報を提供いただいた。売却先は以下の通り：「Yamanaka & Co., 680 Fifth Avenue, New York, c/o K. Tanaka, Esq.」。
- 12) 荒城季夫「春の仏蘭西展について」『みづゑ』255号、234頁。
- 13) この作品の取引に関する資料や記録は、残念ながら、山中商会には残されていないものの、山中定次郎と和田久左衛門は数寄者の茶会で名を連ねている。問い合わせに対応くださり、上記の情報を提供くださった株式会社山中商会の山中讓氏、山中雅子氏にお礼申し上げます。近代数寄者の活動については、以下の文献も参照：齋藤康彦「近代数寄者の大寄せ茶会と社会文化事業」『山梨大学教育人間科学部紀要』第10巻(2008年度)、229-312頁、齋藤康彦『近代数寄者のネットワーク 茶の湯を愛した実業家た

- ち』思文閣出版、2012年。住友吉左衛門の『御茶会記』に記された140名の茶客のなかに、山中定次郎と和田久左衛門の名前が含まれている。また二人は、1922（大正11）年に財団法人として再発足した光悦会の地区評議員に名を連ねている。
- 14) 福満葉子「和田久左衛門」『西洋美術に魅せられた15人のコレクターたち 1890-1940』（展覧会図録）石橋財団ブリヂストン美術館、1997年、62-64頁。
- 15) Alfred Sensier, *La vie et l'œuvre de J.-F. Millet*, Paris, 1881, p.81. 邦訳は以下を参照：井出洋一郎監訳『ミレーの生涯』講談社、1998年、76頁。
- 16) Sensier, p.153.『ミレーの生涯』、133頁。
- 17) Sensier, p.156.『ミレーの生涯』、135頁。
- 18) Etienne Moreau-Nélaton, *Millet rencontré par lui-même*, Paris, 1921, tome 2, pp. 12-15.『乳しぼりの女』は「La traite des vaches, à Gréville (1854). Peinture appartenant au Musée de Boston. (Don de Martin Brimmer.)」として掲載されている（Moreau-Nélaton, tome 2, fig. 100）。
- 19) Alexandra R. Murphy, et al., *Jean-François Millet: Drawn into the Light*, exh. cat., Sterling and Francine Clark Art Institute, 1999, p. 66.
- 20) Christopher Parsons and Neil McWilliam, ““Le Paysan de Paris”: Alfred Sensier and the Myth of Rural France,” *Oxford Art Journal*, Vol. 6, No. 2, 1983, pp. 38-58; Neil McWilliam, “Mythologising Millet,” in Andreas Burmester, Christoph Heilmann, Michael F. Zimmermann, eds., *Barbizon: Malerei der Natur - Natur der Malerei*, München, 1999, pp.437-447. また、サンシエによるミレー観が他の画家に与えた影響については、以下の論文を参照：安井裕雄「ゴッホのサンスイエ体験」『ゴッホ、ミレーとバルビゾン画家たち』（展覧会図録）名古屋市美術館、岩手県立美術館、財団法人ひろしま美術館、2004年、174-182頁。
- 21) Robert L. Herbert, “Naive Impressions from Nature: Millet’s Readings, from Montaigne to Charlotte Brontë,” *The Art Bulletin*, Vol. 89, No. 3 (September 2007), pp. 540-561.
- 22) 以下の研究を参考にした：François Guillet, «Naissance de la Normandie (1750-1850)», *Terrain* [En ligne], 33, septembre 1999, mis en ligne le 28 avril 2005, consulté le 13 octobre 2014. URL: <http://terrain.revues.org/2712>; DOI:10.4000/terrain.2712 (最終アクセス2015年1月30日) ; Guillet François, «Entre stratégie sociale et quête érudite : les notables normands et la fabrication de la Normandie au XIXe siècle », *Le Mouvement Social*, 2003/2 no 203, p. 89 -111. DOI : 10.3917/lms.203.0089. URL: <http://www.cairn.info/revue-le-mouvement-social-2003-2-page-89.htm> (最終アクセス2014年10月22日) ; François Guillet, «L’invention de la Normandie», *séminaire «Normandie» année 2010/2011, Université Populaire de Caen*, URL: http://upc.michelonfray.fr/wp-content/uploads/2011/08/InventionNormandieGuillet_2010_2011.pdf (最終アクセス2015年1月30日) ; 原聖『〈民族起源〉の精神史 プルターニュとフランス近代』岩波書店、2003年；酒井健「『ロマネスク』概念の誕生—ノルマンディー—好古家協会と好奇心の美学」『言語と文化』法政大学言語・文化センター、第7巻（2010年）1-41頁；清水祐美子「フランス・フランドル地方における民謡収集とアイデンティティの形成—地域と国家の間で」『Quadrante』東京外国語大学海外事情研究所、第15巻（2013年）、223-241頁。19世紀後半のフランスでのノルマンディーのイメージについては以下の論文で詳しく考察されている。Bradley Fratello, “Footsteps in Normandy: Jean-François Millet and provincial nostalgia in late-nineteenth-century France,” in Frances Fowle and Richard Thomson, eds., *Soil and Stone: Impressionism, Urbanism, Environment*, Edinburgh, 2003, pp.49-64.
- 23) Maura Coughlin, “Millet’s Milkmaids,” *Nineteenth-Century Art Worldwide*, Vol. 2, No. 3 (Winter 2003), URL: http://www.19thc-artworldwide.org/winter_03/247-millet-milkmaids (最終アクセス2015年1月30日) この画題に関する先行研究は以下の論文。Robert L. Herbert, “La laitière normande à Gréville de J. F. Millet,” *Revue du Louvre et des musées de France*, No. 1 (February 1980), pp. 14-20.
- 24) Sensier, p.100.『ミレーの生涯』、88頁。
- 25) Sensier, p.102-103.『ミレーの生涯』、89頁。

資料：1875年の競売出品作品

本資料の作成には以下の著作を参考にした。

Catalogue de la vente de Jean-François Millet, Paris, 1875.

Alexandre Piedagnel, *J.-F. Millet; Souvenirs de Barbizon*, Paris, 1876.

lot.no.	カタログ掲載データ	落札額(フラン)	同定作品データ
1	La Famille du Pêcheur. / Haut. 45 c.; Larg. 31 c. / 1847-1848.	2,700	
2	Baigneuses. / Haut. 28 c.; Larg. 19 c. / 1848.	810	Deux baigneurs, 1848, oil on panel, 28.0 x 19.0 cm, Paris, Musée d'Orsay, Inv. RF 141
3	Carriers. / Esquisse. / Haut. 72 c.; Larg. 57 c. / 1847-1849.	1,500	The Quarriers, 1846-47, oil on canvas, 73.6 x 59.6 cm, Toledo Museum of Art, Gift of Arthur J. Secor, 1922.45
4	Petite Bergère assise. / Une bergère couverte d'une mante et appuyée sur un bâton garde ses moutons qui paissent sur la lisière d'un forêt. / Haut. 46 c.; Larg. 38 c. / 1852.	10,000	
5	Mère avec ses enfants. / Haut. 29 c.; Larg. 21 c. / 1852.	7,050	La précaution maternelle, 1855-57, oil on canvas, 29.0 x 20.5 cm, Paris, Musée du Louvre département des Peintures, Inv. RF 1441
6	Bergère (L'hiver). / Une bergère est appuyée contre un tertre le long d'un petit bois dépouillé de feuilles. / Haut. 20 c.; Larg. 32 c. / 1853-54.	3,300	The Shepherdess, c.1850-52, oil on canvas, 20.3 x 32.0 cm, Victoria and Albert Museum, London, Bequeathed by Constantine Alexander Ionides, CAI.48
7	Cardeuse de laine. / Esquisse. / Haut. 90 c.; Larg. 86 c. / 1853-54.	2,000	
8	Une rue de Gréville. / Étude. / Haut. 38 c.; Larg. 46 c. / 1854.	1,650	Rue à Gréville, after 1854, oil on canvas, 39.3 x 46.9 cm, Private Collection
9	Le Bord de la mer, à Gréville. / Des paysans ramassent du verch dans les rochers qui bordent la falaise. / Étude d'après nature. / Haut. 31 c.; Larg. 41 c. / 1854.	2,100	
10	Falaises de Gréville. / Étude d'après nature. / Haut. 38 c.; Larg. 46 c. / 1854.	1,500	
11	Falaises et Rochers (Gréville). / Étude d'après nature. / Haut. 46 c.; Larg. 55 c. / 1854.	3,900	
12	Puits de la maison de Millet, à Gréville. / Étude d'après nature. / Haut. 41 c.; Larg. 32 c. / 1854.	2,300	The Well at Gruchy, 1854, oil on canvas, 40.0 x 32.4 cm, Victoria and Albert Museum, London, Bequeathed by Constantine Alexander Ionides, CAI.49
13	Une Maison du hameau de Gruchy Gréville, avec vue sur la mer. / Haut. 55 c.; Larg. 46 c. / 1854.	6,400	
14	La Maison de Millet à Gréville. / Étude d'après nature. / Haut. 60 c.; Larg. 73 c. / 1854.	4,000	Millet's Family Home at Gruchy, 1854, oil on canvas, 59.7 x 74.0 cm, Museum of Fine Arts, Boston, Gift of the Reverend and Mrs. Frederick A. Frothingham, 93.1461
15	Laitière accoudée contre un arbre. / Esquisse. / Haut. 55 c.; Larg. 46 c. / 1854-1855.	7,600	The Milkmaid, begun in 1854, oil on canvas, 55.2 x 45.7 cm, Tweed Museum of Art, University of Minnesota Duluth, Gift of Mrs. George P. Tweed
16	Village de Gréville. / Étude d'après nature. / Haut. 53 c.; Larg. 72 c. / 1854-1855.	3,100	Farm at Gruchy, 1854, oil on canvas, 54.0 x 72.7 cm, Smith College Museum of Art, Northampton, Purchased with the Tryon Fund, SC 1931:10
17	Femme étendant du linge. / Sous un prunier, un jeune garçon tient dans ses bras un petit enfant, tandis que la mère est occupée à étendre du linge. / Haut. 26 c.; Larg. 35 c. / 1854-1856.	4,200	Woman hanging out Washing, c.1845-56, oil on panel, 26.0 x 35.0 cm, Private Collection
18	Récolte de pommes. / Ébauche. / Haut. 37 c.; Larg. 30 c. / 1856.	1,700	
19	L'Enfant malade. / A la porte d'une chaumière, une femme assise sur un banc regarde avec sollicitude l'enfant qu'elle tient dans ses bras, tandis que le père, debout sur le seuil de la porte, lui une tasse. / Esquisse. / Haut. 89 c.; Larg. 65 c. / 1854.	2,600	Baby, 1858, oil on canvas, 81.2 x 65.4 cm, Private Collection
20	La Récolte des pommes de terre. / Au preier plan, un groupe de paysans remplissent les sacs des pommes de terre que l'on voit arracher sur un plan plus éloigné. / Haut. 38 c.; Larg. 46 c. / 1858-1860.	4,000	
21	Lapins dans les Gorges d'Apremont. (Soleil levant.) / Haut. 33 c.; Larg. 39 c. / 1859-1860.	600	
22	Cardeuses. / Haut. 46 c.; Larg. 33 c. / 1860.	4,600	
23	Femme portant deux seaux. / Haut. 41 c.; Larg. 33 c. / 1860.	5,150	

24	Femme trayant une vache. / Pâturage de Normandie. / Haut. 59 c.; Larg. 72 c. / 1860.	6,800	Woman Milking a Cow, 1854-60, oil on canvas, 59.0 x 72.4 cm, Bridgestone Museum of Art, Tokyo
25	Femme revenant du bois. / Esquisse. / Haut. 80 c.; Larg. 55 c. / 1864.	1,000	
26	Les Tondeurs de moutons. / Une femme est en train de tondre un mouton que le paysan maintient sur une cuve renversée. / Haut. 41 c.; Larg. 26 c. / 1862-64.	7,100	The Sheepshearers, 1857-61, oil on canvas, 41.2 x 28.5 cm, The Art Institute of Chicago, Potter Palmer Collection, 1922.417
27	Rochers et Pommiers, près Barbizon. / Haut. 50 c.; Larg. 61 c. / 1863-64.	4,000	
28	Fendeur de bois. / Effet d'hivier. Un bûcheron levait son maillet pour enfoncer les coins dans un morceau de bois. A peu de distance l'entrée de la forêt. / Haut. 81 c.; Larg. 65 c. / 1864-1865.	10,100	The Woodchopper, 1858-66, oil on canvas, 81 x 65 cm, The Art Institute of Chicago, Potter Palmer Collection, 1922.416
29	Paysage. / Étude pour le tableau du Printemps. / Haut. 46 c.; Larg. 38 c. / 1865.	1,210	Study for the Four Seasons: Spring (Daphnis and Chloe), c.1860-65, oil on canvas, 46.0 x 38.0 cm, Victoria and Albert Museum, London, Bequeathed by Constantine Alexander Ionides, CAI.172
30	Les Bêcheurs. / Esquisse. / Haut. 77 c.; Larg. 100 c. / 1865.	1,080	The Diggers, c.1855-56, oil on canvas, 81.3 x 100.3 cm, Tweed Museum of Art, University of Minnesota Duluth, Gift of Mrs. George P. Tweed
31	La Fin de la Journée. / Effet du soir. Un paysan remet sa veste. Au fond on voit perdus dans la poussière qu'ils soulèvent, les chevaux d'un laboureur qui regagnent le hameau. / Haut. 59 c.; Larg. 73 c. / 1865-67.	7,300	La fin de la journée; effect du soir, oil on canvas, 59.7 x 73.0 cm, Private Collection
32	Nuit étoilée. / Un chemin le long d'un bois; au fond une charrette. Le ciel est semé de planètes et d'étoiles. / Haut. 65 c.; Larg. 81 c. / 1867.	3,150	Starry Night, c.1850-65, oil on canvas, 65.4 x 81.3 cm, Yale University Art Gallery, Leonard C. Hanna, Jr., Class of 1913, Fund, 1961.22
33	Les Tueurs de Cochons. / Des paysans tirent avec peine l'animal hors de son toit; une femme lui tend un seuil plein de pâtée. Deux petit enfants regardent de loin la scène avec curiosité et effroi. / Haut. 68 c.; Larg. 92 c. / 1867-69.	24,000	The Pig Killers, 1867-1870, oil on canvas, 73.0 x 92.7 cm, National Gallery of Canada, no. 18963
34	Nature morte. / Haut. 31 c.; Larg. 38 c. / 1868.	1,500	Nature morte aux navets, 1868, oil on panel, 30.5 x 37.5 cm, Musée National des Beaux-Arts d'Alger
35	Jeune Bergère assise sur une roche. / La bergère, la tête d'un large chapeau, et tenant son fuseau à la main, est assise dans une attitude mélancolique sur un rocher; la figure se détache en vigueur sur un horizon et un ciel pleins de lumière. / Haut. 162 c.; Larg. 114 c. / 1869.	13,000	Young Shepherdess, c.1870-73, oil on canvas, 162.0 x 130.0 cm, Museum of Fine Arts, Boston, Gift of Samuel Dennis Warren, 77.249
36	Étude pour les Falaises de Gréville. / Haut. 54 c.; Larg. 68 c. / 1870-71.	0	(non présentée à la vente)
37	Bergère gardant son troupeau dans les rochers. / Le soleil, à moitié caché par un nuage, éclaire le ciel d'un puissant effet de lumière sur lequel se détache la figure de la bergère. / Haut. 73 c.; Larg. 92 c. / 1871.	4,700	The Keeper of the Herd, 1871-74, oil on canvas, 71.7 x 91.5 cm, The Art Institute of Chicago, Mr. and Mrs. W. W. Kimball Collection, 1922.4462
38	Pêcheurs remorquant leur barque. (Calme plat.) / Effet de brume sur une belle matinée. / Haut. 32 c.; Larg. 40 c. / 1871.	3,500	Pêcheurs remorquant leur barque, 1871, oil on canvas, 32.0 x 40.0 cm, Private Collection
39	Barque de Pêcheurs en mer. (Effet de soleil.) / Haut. 32 c.; Larg. 40 c. / 1871.	6,300	
40	La Famille du Paysan. / Le père, la mère et l'enfant sont sur le devant de la maison avec leurs instruments de travail. Au fond, les animaux qui peuplent la demeure du paysan. / Haut. 111 c.; Larg. 81 c. / 1871-72.	5,110	The Peasant Family, 1871-72, oil on canvas, 110.4 x 81.0 cm, National Museums and Galleries of Wales, Cardiff, The Davies Sisters Collection, NMW A 2473
41	Falaises de Gréville. / Vue prise du Maupas pas. On voit se drouler toute la ligne de la falaise jusqu'à la pointe d'Omonville. La mer est basse et l'on voit qu'elle ne découvre pas davantage la plage où elle se brise contre les récifs. / Haut. 95 c.; Larg. 118 c. / 1871-72.	4,600	Les Falaises de Gréville, 1871-1872, oil on canvas, 123.7 x 146.5 cm, The Albright-Knox Art Gallery, Elisabeth H. Gates Fund, 1919, 1919:7
42	Vacher rappelant ses Vaches. / Le vacher est debout sur une élévation appelant au son d'une trompe le troupeau qui arrive de toutes parts et se presse dans un pli de terrain. Effet de soleil couchant. / Haut. 92 c.; Larg. 66 c. / 1872.	4,000	Calling the Cows Home, c.1872, oil on wood, 94.6 x 64.8 cm, The Metropolitan Museum of Art, Gift of Mrs. Arthur Whitney, 1950, 50.151
43	Chasse-Marée en mer. / Esquisse. / Haut. 75 c.; Larg. 95 c. / 1872.	1,520	

44	Tête de femme. / Étude peinte presque d'un seul ton. Bergère appuyée sur son bâton. / Haut. 41 c.; Larg. 37 c. / 1872.	800	
45	Coup de Vent. / Approche d'un ouragan: la tempête brise et balaie tout devant elle. Un grand chêne déraciné par la violence du vent menace dans sa chute un berger et son troupeau qui fuient épouvantés. Le ciel, couvert de nuages sombres, ne laisse apercevoir à l'horizon qu'une faible partie éclairée par le soleil couchant sur lequel se dessine la silhouette du hameau. / Haut. 90 c.; Larg. 118 c. / 1872-73.	10,900	The Gust of Wind, 1871-73, oil on canvas, 90.5 x 117.5 cm, National Museums and Galleries of Wales, Cardiff, The Davies Sisters Collection, NMW A 2475
46	Jeune Mère berçant son enfant dans ses bras. / Figures grandeur naturelle. / Haut. 110 c.; Larg. 92 c. / 1872-73.	5,800	
47	Bergère et son Troupeau. / Esquisse. Au fond la tour du moulin de Chailly. / Haut. 90 c.; Larg. 118 c. / 1873.	2,480	Shepherdess and her Flock with the Mill Tower of Chailly, 1873, oil on canvas, 94.0 x 119.0 cm, Private Collection
48	La Tour du Moulin à Vent. / Esquisse. Ruines d'un vieux moulin dans la plaine de Chailly. / Haut. 90 c.; Larg. 118 c. / 1873.	1,175	Ruines d'un vieux moulin dans la plaine de Chailly, oil on canvas, 90.0 x 117.0 cm, Rijksmuseum Mesdag, The Hague, Inv. 263
49	Le Soir. / Un paysan, sa femme montée sur son âne et un petit troupeau de moutons sont en marche pour regagner le village, après une journée de travail. On voit briller l'étoile du soir. Des nuages légèrement empourprés couvrent l'horizon. / Haut. 80 c.; Larg. 100 c. / 1873.	6,050	
50	Église de Gréville. / L'église s'élève non loin de la falaise et en vue de la mer, qu'on aperçoit à l'horizon. Des nuées d'oiseaux voltigent autour dans un ciel de printemps rempli de nuages floconneux et de vaqueurs. / Haut. 59 c.; Larg. 72 c. / 1872-1874.	12,200	L'Eglise de Gréville, 1871-74, oil on canvas, 60.0 x 73.4 cm, Paris, Musée d'Orsay, Inv. RF 140
51	Laitière normande à Gréville. / Une paysanne porte sur la tête une cruche de cuivre pleine de lait bouchée avec un poignée d'herbes. Effet de soir. / Haut. 73 c.; Larg. 57 c. / 1874.	5,000	Laitière normande à Gréville, 1874, oil on canvas, 73.0 x 57.0 cm, Paris, Musée d'Orsay, Inv. RF 1978 18
52	Âne dans une lande. / Sur la pente d'un terrain âpre et rocheux, un âne qui braie. Au-dessus, un grand ciel de printemps où s'enroulent en spirales, poussés par le vent, des nuages éclatants de lumière. / Haut. 92 c.; Larg. 100 c. / 1874.	6,950	The Hill Top, 1871-74, oil on canvas, 81.0 x 100.0 cm, The Hon. Vere Harmsworth, London
53	Chasse aux Flambeaux. / De jeunes paysans armés de torches de paille enflammée vont la nuit surprendre dans les haies les oiseaux et les abattent à coups de palette. / Haut. 71 c.; Larg. 92 c. / 1874.	5,000	Bird's-Nesters, 1874, oil on canvas, 73.7 x 92.7 cm, Philadelphia Museum of Art, The William L. Elkins Collection, 1924, E 1924-3-14
54	Bergère rentrant avec son troupeau. (Soleil couchant.) / Le soleil est couché, l'étoile du soir s'incline déjà sur l'horizon. Une jeune fille rentre suivie de ses moutons, qui se pressent dans un chemin creux; le chien, sur un tertre, surveille le troupeau. / Haut. 45 c.; Larg. 51 c. / 1874.	11,000	Return of the Shepherdess, 1874, oil on panel, 45.8 x 53.2 cm, Private Collection
55	Leçon de couture. / Esquisse. Une paysanne tenant un enfant dans ses bras, donne à une petite fille d'une dizaine d'années ses premières leçons de couture. Une fenêtre ouverte laisse voir le jardin plein de lumière et de verdure. / Haut. 82 c.; Larg. 65 c. / 1874.	1,850	Sewing Lesson, 1874, oil on canvas, 81.7 x 65.4 cm, Museum of Fine Arts, Boston, Gift of Martin Brimmer, 76.1
56	La Mer vue des Pâturages de Gréville. / Entrée d'un pâtage ou clos sur les falaises de Gréville. Au fond un immense horizon de mer calme sur lequel viennent trancher les silhouettes de quelques animaux paissant sur la pente de la falaise. / Haut. 73 c.; Larg. 92 c. / 1874.	14,200	